

6桁座標を読み取らなう

記号の意味 座 標

⊕ _____

⚡ _____

⬆ _____

⊗ _____

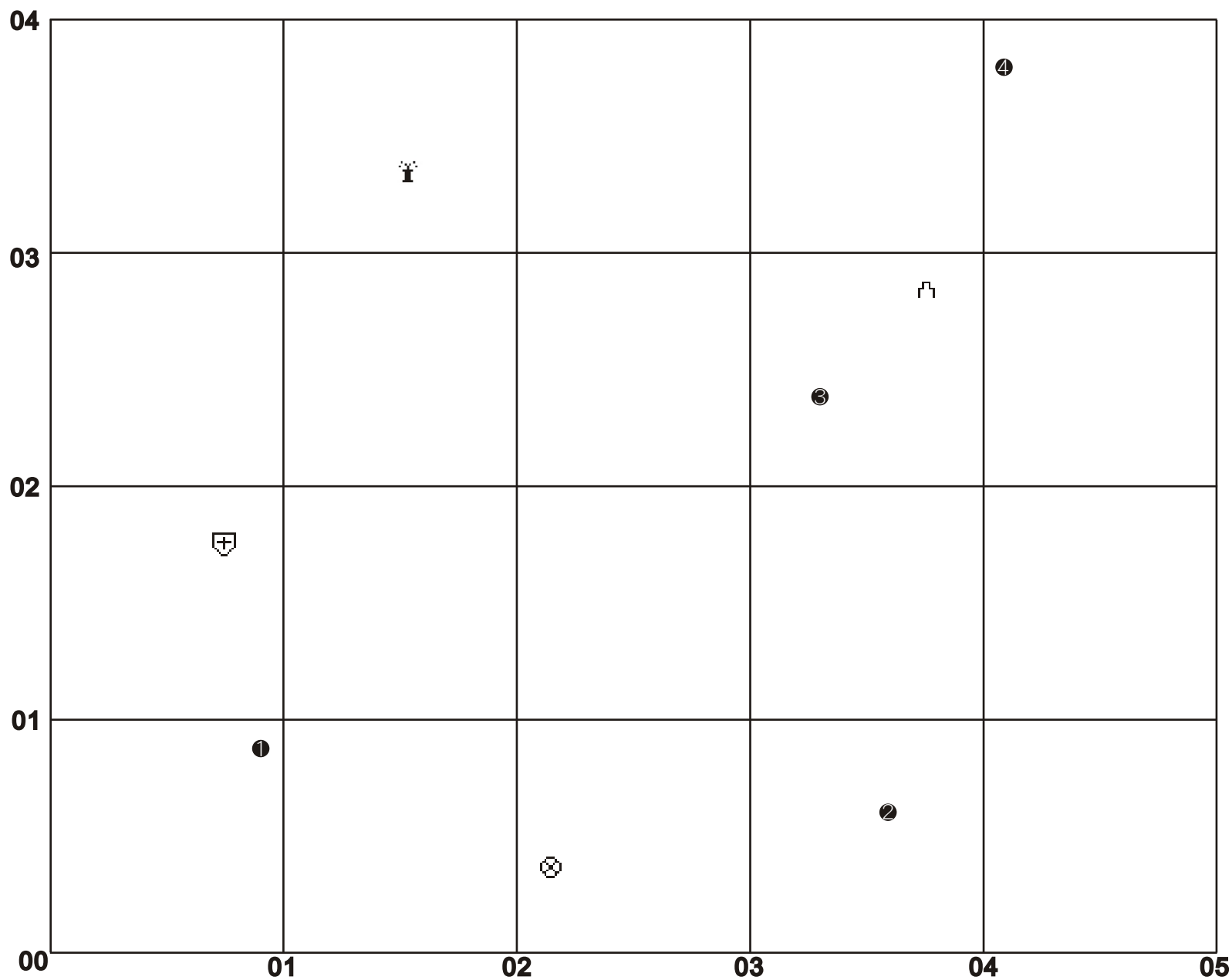
座 標 番 号

0 3 3 0 2 4 _____

0 4 1 0 3 8 _____

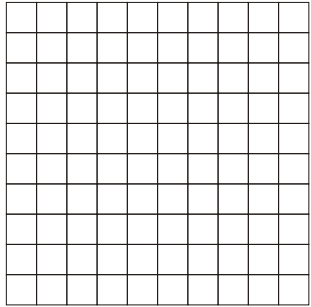
0 3 6 0 0 6 _____

0 0 9 0 0 9 _____



読図作業資料 1

右の図を使って下記の
座標作業をしてみよう
(作図基点は左下の角とする)



- ①座標軸の真北線を引いてみよう
- ②座標軸の磁北線を引いてみよう
※但し磁北偏差は7度とする

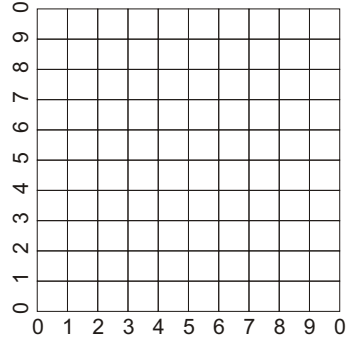


読図作業資料 1

右の図を使って下記の座標作業をしてみよう
(作図基点は左下の角とする)

25000/1

6桁読み方眼



磁北線
真北線

①座標軸の真北線を引いてみよう

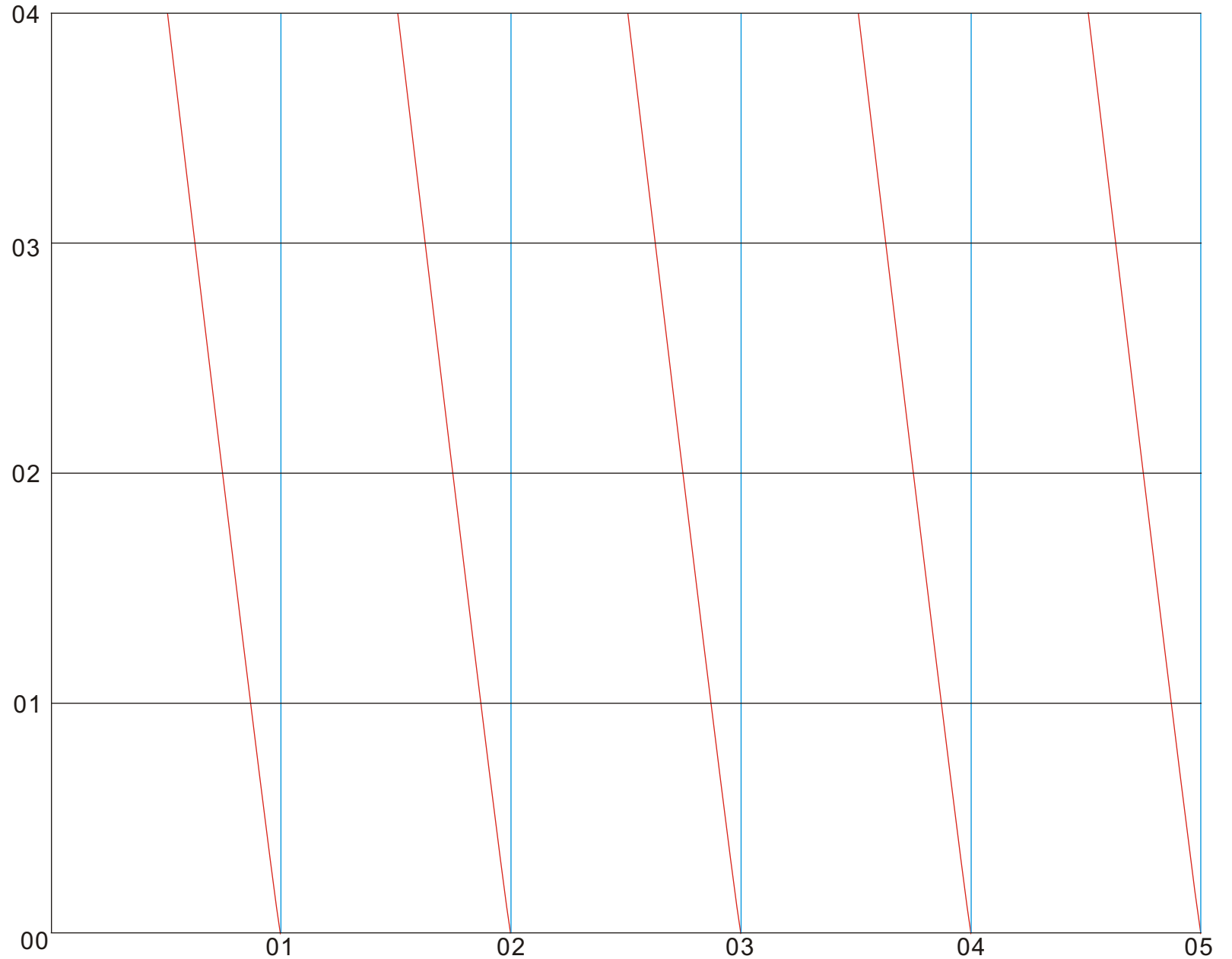
②座標軸の磁北線を引いてみよう

※但し磁北偏差は7度とする

6桁座標を讀んでみよう

記号の意味	座標
⊕	病院 007017
⚓	公園 015033
⬢	城郭 037028
⊗	役所 021003

座標	番号
0 3 3 0 2 4	③
0 4 1 0 3 8	④
0 3 6 0 0 6	②
0 0 9 0 0 9	①

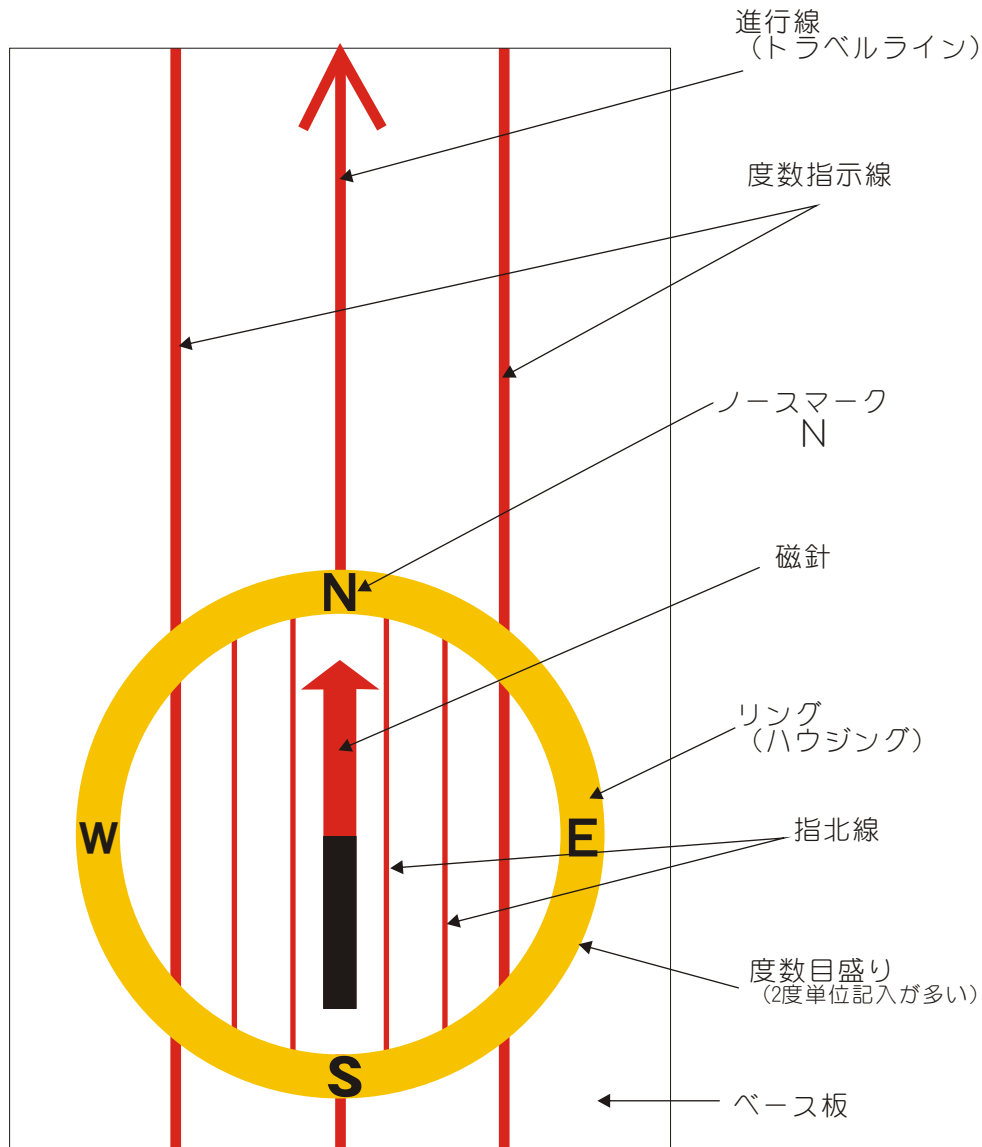


※ 8桁座標を讀み方に
ふれるといいかも

指導者解答用

参考資料 1

コンパスの名称



地図上で自分の位置を知る方法

クロス・ベアリング法

特徴のある目的物

現在地を特定する、**クロスベアリング**と呼ばれる方法で、現在地から同定できる**2箇所以上の山のピークや特徴のある建物などの目標**を使います。

①まず、最初の目標にコンパスを向け、コンパスの針と回転リングの矢印が重なるようにリングを回します。

②次に地図上の目標地点にコンパス本体の角 (トラベルラインのある上辺の角) を合わせ、回転リングの矢印と地図の磁北線が平行になるまで、コンパス本体を回転させます。平行になったら、目標地点からコンパスの側辺を引いて直線を引きます。この延長線上のどこかが自分の現在地になります。

③次の目標も同様な操作を行い、引いた線が交差した地点が自分の現在地ということになります。**これを繰り返すことでより正確さが増します。**

目的の方向を知る方法

山頂や見晴らしの良い場所に着くとすばらしい展望。しかし、どれが何山どんな建物なのかさっぱりわかりません。こんなときは、次のような操作をおこなって確認します。

①まず地図上で現在地から知りたい目標の山や目的物を結ぶ直線と平行になるようにコンパスを置きます。

②次にコンパスの回転リングを回し、矢印があらかじめ地図に記入しておいた磁北線と平行になるようにします。

③コンパスを体の正面に構え、コンパスの針 (赤く塗られたN極) と矢印が重なるまで体を回転させます。これでコンパスのトラベルライン (コンパス本体にある矢印) の延長上に目標の山が見えます。稜線上の縦走路などで、同定できる山や目標物が見えれば、この操作を逆行なうこ

目標地点 目的物

磁北線

目標地点 目的物

磁北線

※参考資料 3

必ず地図には磁北線を引いておこう

地形図、登山地図に限らず、地図は基本的には上が北になるように作図されています。地図上の北は「真北」と呼ばれ、その延長線は北極点に至ります。また、地図を活用するために必要不可欠なコンパスが指す北は「磁北」と呼ばれ、北極点からずれた地点にある磁北点を指し示しています。このずれを「磁北偏差」と呼び、その値は場所によって、また経年変化で差がでてきます。

日本地図ではおおむね西へ5度～9度程度のずれがあり、各地形図には「西偏〇度〇分」という具合に記入されています。

(地図の右端に記入してあります)

7度という値は一見小さそうですが、1km進むとその誤差は約120mにも達する為無視はできません。

このような理由で、地図とコンパスを有効に使うためには、地形図もしくは登山地図上に西偏角度を示す「磁北線」を何本か記しておく必要があります。

地形図なら4cm 間隔(5 万分の1 では2km、2.5 万分の1 では1km 間隔のスケールになります)で磁北線を引いておくと使いやすくなります。

日本の主な磁北偏差

札幌	9.4度
東京	6.9度
大阪	7.0度
沖縄	4.2度
宗谷岬	10.3度
南鳥島	0.4度

磁北極の移動

